

■大槻平泉 仙台藩代々の学者を出し、幕末から維新にかけて大きな役割をする大槻家の基礎を確立。

おおつきへいせん

大原騒動・・・1773＝

陸奥国の仙台藩領西岩井で、豊臣秀吉の小田原征伐に加わず奥州仕置で所領を没収された葛西氏とともに漂泊の身となった分流の家臣で、勃発した葛西・大崎一揆に参加して伊達政宗軍に謀殺され、西岩井に流れ着いた嫡子の子孫で、代々大肝煎を務める大槻清雄の次男に生まれる。

祖父清慶は上胆沢郡の大肝煎千田家の出で大槻家の女婿となり、文人として地方文化開拓の祖ともいべき人物で、父清雄・兄清臣もそれを受継ぎ、一流文人が立寄るほどの家に育ち、

天明大飢饉始1782＝ 9歳：

田沼意次失脚1786＝13歳：

篠谷銅台や志村東嶼に学んだ後、

混浴禁止・・・1791＝18歳：_江戸に出て、大学頭林述斎に入門、さらに、昌平黌に入学して朱子学を学び、

松平定信引退1793＝20歳：

伊能測量始・1800＝27歳：この頃には、_舎長となって、俸米を支給されるに至る。

宣長没・・・1801＝28歳：全国巡遊の旅に出、

関東以西の58ヶ国を訪ねて、地勢・人情・風俗・産業などをつぶさに見て回り、

青洲麻醉手術1805＝32歳：江戸に戻ると、

いざゞ報復・1806＝33歳：_仙台藩の儒員に推挙されたため、

間宮海峡発見1808＝35歳：_昌平黌を辞して仙台に帰る。

浮世風呂・・・1809＝36歳：*藩命で、藩校[養賢堂]の学制について研究するとともに、学頭方御用となり、

・・・1810＝37歳：*江戸に出て、林述斎らから「学制十八箇条」への賛同を得て帰藩し、学頭となる。

・・・1815＝42歳：学制のうち、医学教育分離が実現、

杉田玄白没・1817＝44歳：*その第一の項目たる講堂拡張については、宇内第一といわれた講堂が竣工、医学校独自の学舎も完成するが、なお10数年、藩士の寄付を得て、聖廟の落成まで至る大工事となる。

水野忠成老中1818＝45歳：

維持費については、この間に、新田開発高1万3千石が充てられる。

異国船打払令1825＝52歳：オランダ医学を採用する。

日本外史・・・1827＝54歳：

・・・1836＝63歳：

大塩平八郎乱1837＝64歳：

阿部正弘首座1845＝72歳：

_学制のうち、教導の法・出版のことなどを、次々と実現させながら、

国定忠治没・1850＝77歳：*学頭の任にあること40年にして、没した。

支校設置については、子習齋の時代に下閉伊郡川内に開校されたのみで、他は実現せず。

「人づくり風土記(岩手)(宮城)」、